

DEDICATION TO  
ALEXANDRE TANSMAN

PIANO SOLO, DUET & TWO PIANOS

アレクサンドル・タンスマンの世界

ピアノ独奏・連弾・2台ピアノ

19 APRIL 2003 (SAT) 19:00  
SHINJUKU BUNKA CENTER  
TOKYO, JAPAN

Dear friends from Japan,

As Mr. Masaki Nishihara has written to me, this program is entirely dedicated to our father and grandfather. It is for my sister and me a real great joy ! In the far 1933 year, my father made an important round in the world, beginning with Japan concerts : he played piano alone, with orchestra, and he was received in your country so wonderfully that he always remember it when he related to us his memories or in his numberless radio-interviews and articles in newspapers. Several photos of his Japan round are framed on the walls of his home, and in his archives, we have a very interesting book containing programs, articles, etc., of this "tour". My father has travelled in all the world, but he liked to give a detailed account of Japanese hospitality, such as when he arrived for the first rehearsal of his 2<sup>nd</sup> piano Concerto and the orchestra was ready without any score, playing from memory; or, when he returned to the hotel, he found every day a lot of precious presents or flowers, or when he received from the Emperor Hiro Hito the Culture Medal and a special Samurai sword... which we still have. His music was so much appreciated as well as his playing piano, that he had to add other concerts before leaving Japan. He always said to us that there was a special and mysterious feeling between Polish and Japanese sensitiveness !

My sister and me are very grateful to the "Piano-Trio", Ms. Kae Oyama, MM. Masaki Nishihara and Tetsu Mashiko for their interest in our father's piano music, and we wish that they will be rewarded by a great success. The program also is well selected, with several sights of the 2 pianos catalogue. Thanks also to Mr. Kawasaki for the organization of the concert. The only regret we feel is... that we live so far from Tokyo and cannot be with you for this event... but our gratitude and our thought are with you.

It's a very nice coincidence that in the program, the "Trio" plays our grandfather's "Ames d'enfants". We haven't been acquainted with our grandfather as he died before our birth, but we have listened so much to our mother's, our grandmother's stories concerning him as man and as artist, and we love his music as well as his human personality, that we are very proud to have a such outstanding family. This piano work is dedicated to our grandfather's 3 daughters, Isaure (*Zézette* in family), our mother Colette and our still living aunt Monique (now 92 years). Our mother studied piano at the Paris Conservatory, and she has been a great concert-performer. When she married with our father, they often played together 2 pianos or 4 hands, for example the Carnaval Suite, or our mother played under our father's orchestra direction. The 2 pianos Fantasy on Strauss Waltzes was a request from the "Reding and Piette piano Duo". It is one of the most popular 2 pianos piece, played in all the world.

So, thank you again, all our best to the Japanese public, one of the most attentive and sensitive in the world, it is well known, and not only our father said it, but many actual composers who have the opportunity to play or be played there, still say it !

Mireille and Marianne Tansman

Lucca, Italy, 5 April 2003

Marianne Tansman Martinozzi

日本の皆さんへ

西原昌樹氏が私に知らせてくれたとおり、このプログラムは、全体が、私たちの父と祖父とに捧げられたものです。これは、姉と私にとり、本当に大きな喜びです。1933年という昔に、父は、日本でのコンサートを皮切りに、世界をまわる重要な演奏ツアーを行いました。日本では、ピアノ独奏とオーケストラとの共演を行いました。父は、貴国での歓迎ぶりがすばらしかったことをいつまでも忘れず、私たちに思い出を語っていましたし、ラジオでのインタビューや新聞記事も多く残っています。日本ツアーでの数葉の写真は彼の自宅の壁に額縁に入れて飾られており、彼の書庫には、このツアーでのプログラム、記事などを含んだ非常に興味深い冊子が保管されています。父は世界中をまわりましたが、とりわけ、日本人の心のこもったもてなしを好んで語ったものです。たとえば、彼が、自作の第2ピアノ協奏曲の最初のリハーサルを行うために到着したとき、日本のオーケストラはすでに暗譜ができていて、譜面なしで演奏したこと。彼がホテルに戻ると、たくさんの貴重な贈り物や花が毎日届けられたこと。カルチャー・メダルと、私たちが今も大事に保管している特別なサムライの日本刀を裕仁天皇から受け取ったこと。彼の音楽が、彼のピアノ演奏とともに非常に高く評価され、日本を発つ前に追加のコンサートを開かなくてはならなかったこと、など。彼は、ポーランド人と日本人の感受性には、特別で不思議な共通性があることを、いつも私たちに語ったものでした。

姉と私は、小山佳枝さん、西原昌樹氏、益子徹氏の三人の〈ピアノ・トリオ〉が、父のピアノ音楽に関心を寄せていることに感謝し、彼らが成功をもって迎えられることを望みます。このプログラムの曲目は、2台ピアノの作品目録をよく調べて、念入りに選曲されたものです。コンサートの運営に関して、川崎氏にも感謝します。私たちが一つだけ残念に思うことは、私たちが東京から非常に離れたところに住んでいて、このイベントに同席できないことですが、私たちの感謝、私たちの気持ちは皆さんとともにあります。

このプログラムで、もう一つうれしいことは、この〈トリオ〉が、私たちの祖父の〈子どもの魂〉を演奏することです。祖父は、私たちが生まれる前に亡くなっていて、私たちは祖父にじかに会うことはありませんでしたが、祖父の人となり、芸術家ぶりについて、母から大変多くの話を聞いて育ちましたので、私たちは祖父の人格とその音楽を愛しており、そのような傑出した家族を持ったことを誇りとしています。〈子どもの魂〉は、祖父の三人の娘、イゾール(愛称ゼゼット)、私たちの母コレット、今も生きている叔母のモニク(現在92歳)に捧げられたものです。私たちの母は、パリ音楽院でピアノを学んだ、すぐれたコンサートピアニストでした。結婚してから、両親はしばしば、たとえば〈カーニバル組曲〉など、2台ピアノや、ピアノ連弾の演奏をし、父のオーケストラ指揮で母がコンチェルトを演奏したものでした。2台ピアノの〈シュトラウスのワルツによる幻想曲〉は、〈ルダン&ピエット・ピアノ・デュオ〉の要望で書かれたもので、もっとも人気のある2台ピアノ作品の一つとして、世界中で演奏されているものです。

ここであらためて感謝し、日本の皆さんによろしくと申し上げます。日本の皆さんは、世界でもっとも丁寧で、感受性が豊かであることはよく知られていますが、それは、私たちの父だけでなく、実際に貴国で演奏する機会を持った多くの作曲家が、いまでもそう言っていることなのです。

ミレイユ・タンスマン & マリアンヌ・タンスマン

2003年4月5日、イタリア、ルッカにてしるす

マリアンヌ・タンスマン・マルティノッツィ

(日本語翻訳: 西原 昌樹)

## タンスマン、タンスマン夫人コレット、ジャン・クラの略歴

### ◆ アレクサンドル・タンスマン ALEXANDRE TANSMAN, 1897-1986

ポーランド出身の作曲家。1919年からパリに定住、のちにフランスに帰化し、第二次大戦中の滞米期間を除いては、終生をパリで過ごした。作風は「ポーランド的感性にフランス趣味を加えたもの」と評されることが多い。古典から前衛的手法まで、多様な技法を駆使し、つねに確固とした個性、叙情性を打ち出すことに成功している。オペラ、バレエ音楽、交響曲、管弦楽曲、協奏曲、室内楽曲、ピアノ曲、声楽曲、映画音楽など、あらゆるジャンルに多数の充実した作品があり、20世紀の重要な作曲家の一人に数えられる。特に1997年の生誕百年を契機として、本格的なタンスマン研究が全世界ですすみつつある。

### ◆ コレット・クラ＝タンスマン COLETTE CRAS-TANSMAN, 1908-53

フランスの女性ピアニスト。タンスマン夫人。ジャン・クラの次女として生まれる。原智恵子、安川加壽子の師として日本でもよく知られる名匠、ラザール・レヴィにピアノを学ぶ。パリ音楽院を首席で卒業。繊細な技巧と魅惑的な美貌とで知られた。1930年、父より献呈されたピアノ協奏曲の初演を手がけ、名声は決定的なものとなった。1937年にタンスマンと結婚。人生の伴侶としても、音楽の上でも、夫から全幅の信頼を寄せられたコレットは、最高の解釈者として夫の作品を演奏した。夫妻は、ピアノデュオの演奏活動も精力的に行った。1953年3月に死去。



アメリカ時代のタンスマン一家、ハリウッドにて。



タンスマンの岳父、ジャン・クラ。

◆ ジャン・クラ JEAN CRAS, 1879-1932

フランスの作曲家。海軍少将をつとめた軍人であり、航海機器の発明家でもあった。作曲は独学で修得。フランス海軍の高級将校として世界各地に赴任し、任務のあいまをぬって軍艦の上で作曲の筆を執った。公私ともに多忙であったクラは、作品数は多くないが、ロマン派と印象派とを融合させた、独自の美しさを持つ音楽を創造した。近年、再評価の機運が特に著しい作曲家の一人である。クラは、発明家としても一流で、航海術の歴史に残る発明を手がけたことでも知られる。

---

このコンサートについて

タンスマンの令嬢のおふたり、ミレイユ・タンスマン・ザヌッチーニ夫人(タンスマンの長女・パリ在住、パリのタンスマン協会事務局長)、マリアヌ・タンスマン・マルティノッツィ夫人(タンスマンの次女・イタリアのルッカ在住)に、私たちは衷心より感謝の意を表したい。おふたりのご厚意を得て、今回のコンサート開催のはこびとなった。ピアノデュオの分野にも数多くの名作を残しているタンスマンは、私たちにとって特別の存在の作曲家である。今回とりあげる作品は、タンスマンの膨大な作品のごく一部である。今後ともタンスマンの作品には継続的にとりこんで参りたい。

## 第一部

### 1. ブルースの形式による二つの前奏曲 (ピアノ独奏)

DEUX PRELUDES EN FORMES DE BLUES (PIANO SOLO, 1937)

\* タンスマンには膨大な量のピアノ曲があり、軽妙なものから雄渾なものまであらゆる種類のものが揃っている。さらりとした、軽いタッチの小品を書くことも、非常に得意としていた。

### 2. ピアノを弾く若者 第1巻 (ピアノ4手連弾)

LES JEUNES AU PIANO, 1<sup>ER</sup> RECUEIL (PIANO 4 HANDS, 1939-40)

\* ピアノの中級以上の学習者が楽しく連弾できるよう配慮された、4巻からなる珠玉のアルバム。第1巻はくラジオを回しながら全8曲。各国の音楽の特徴をうまくとらえた楽しい小品集である。曲ごとの、簡単な解説アナウンス付きでお届けする。

### 3. カーニバル組曲 (2台ピアノ) CARNIVAL SUITE (TWO PIANOS, 1941-42)

I. MARDI GRAS - II. SPIRITUAL - III. STREET - IV. BLUES - V. CAKE-WALK

\* 娯楽味たっぷり。I, III, V は映画音楽からの編曲。II, IV は大西洋横断ソナチネ SONATINE TRANSATLANTIQUE (1930) の緩徐楽章である。よい意味での職人氣質を持ったタンスマンの面目躍如といったところである。

## 第二部

### 4. 子どもの魂 (ジャン・クラ作曲。作曲者によるピアノ6手版)

JEAN CRAS: AMES D'ENFANTS (VERSION FOR PIANO 6 HANDS, 1918)

I. PURES 純真 - II. NAIVES 無邪気

\* ジャン・クラが三人の娘のために書き下ろしたこの作品は、管弦楽版、ピアノ4手版もあるが、なんといっても、娘たちが実際に弾くことを想定して書かれたピアノ6手版に格別の味わいがあることはいうまでもない。詩的で余情に富む響きと、不思議な安らぎ、心なごむ優しさにあふれた音楽である。

### 5. ピアノを弾く若者 第2巻 (ピアノ4手連弾)

LES JEUNES AU PIANO, 2<sup>DEME</sup> RECUEIL (PIANO 4 HANDS, 1939-40)

\* 第2巻は〈幻想小曲集〉全6曲。叙情性豊かな作品が並ぶ。わかりやすく、ロマンティックでありながら、鋭い現代的感覚をも盛り込んでいる。第1巻と同じく、曲ごとの簡単なアナウンス付きでどうぞ。

6. <友人のアルバム>より3つの小品 (ピアノ独奏)  
ALBUM D'AMIS (PIANO SOLO, 1980)

I. NOTTURNO – II. TEMPO DI MAZUR – III. BERCEUSE POLONAISE

\* 最晩年に書かれたタンスマン最後のピアノ作品。9つの短い小品からなるアルバムであり、ここでは3曲を抜粋してお届けしたい。既想的なく夜曲。若き日のギターの名作<マズルカ>を思わせるはつらつとした<マズールのテンポで>。つかの間のノスタルジーへと誘うポーランドの子守歌。

7. ショトラウスのワルツによる幻想曲 (2台ピアノ)  
FANTAISIE SUR DES VALSES DE JOHANN STRAUSS (TWO PIANOS, 1961)

\* <こうもり>、<皇帝円舞曲>、<美しき青きドナウ>など、ワルツ王ヨハン・ショトラウスの有名なウィーナ・ワルツを自由自在に用いて織りなした一幅のタペストリー。バランスのとれた構成。趣味よく洗練された雰囲気。華麗な音響効果をそなえた、タンスマン円熟期の傑作である。コンサートのしめくりにふさわしい華やかさがあり、家路につく皆さんの気持を明るくしてくれるものと思う。

---

\*演奏\* ピアノ独奏: 益子, 4手連弾: 小山, 西原,  
2台ピアノ: 益子, 西原, 6手合奏: 小山, 益子, 西原

---

\*演奏者紹介\* PIANISTS

益子 徹 TETSU MASHIKO 1976年栃木県生まれ。宇都宮大学卒業。  
北英国王立音楽院 (RNCM) ピアノ伴奏科修士課程に在籍中。

小山 佳枝 KAE OYAMA 1974年福岡県生まれ。慶應義塾大学卒業。

西原 昌樹 MASAKI NISHIHARA 1972年岡山県生まれ。上智大学卒業。

---

\* グループPCC次回のコンサートは、7月、8月、9月に<3か月連続公演・2台ピアノサマーコンサート>を開催予定です。3回分のテーマとして、次のものを予定しております。

<2台ピアノのジャズ&ポップス> (ジョブリン、ブルーベック、ニクターリほかの作品)  
<マダム・ビュイグ＝ロジェに捧げる2台ピアノコンサート> (アーン、ケクラン、ミヨーほかの作品)  
<アレクサンドル・タンスマンの世界 II> (ポーランド狂詩曲、組曲大都会 裸の王様 ほか)

\*お手紙は〒169-8799 新宿北郵便局留オフィスPCC宛。e-mailは pccpiano@hotmail.com に。



\*グループPCC コンサート記録\*      OUR CONCERT HISTORY

- 2001年2月24日 板橋区民会館小ホール 2台のピアノの夕べ〈サン＝サーンス(I)とダマーズ〉  
<SAINT-SAENS ET J.-M. DAMASE> ダマーズ: ソナチネ、バストラール、トッカータと終曲  
サン＝サーンス: アルジェリア組曲、前奏曲とサラバンド、ヴィクトル・ユゴーへの賛歌
- 2001年6月2日 トモノホール(市ヶ谷) 2台のピアノの夕べ〈セミクラシック(I)とサン＝サーンス(II)〉  
<DEMI-CLASSIQUE ET ST.-SAENS> コール・ポーター・モデル、ナザレー: コンフィデンシアス、  
R. R. ベネット: 組曲、サン＝サーンス: アラブ綺想曲、ロマンス、ヘラクレスの青年時代
- 2001年10月13日 新宿文化センター小ホール 2台のピアノの夕べ〈アングロサクソンとサン＝サーンス(III)〉  
<ANGLETERRE ET ST.-SAENS> A. ローリー: 組曲、R. V. ウィリアムズ: グリーンズリーブス幻想曲、  
H. ブレイク: 舞曲集、サン＝サーンス: 春はきたりて、交響曲第1番(2台ピアノ版)
- 2001年11月24日 榎坂スタジオ クレメンティ生誕250年に向けて——ピアノソロと連弾  
<PRE-250TH ANNIVERSARY OF MUZIO CLEMENTI>  
連弾ソナタ OP.3-3, OP.14-3, 独奏ソナタ OP.24-2, 打楽器伴奏付ワルツ OP.39 より
- 2002年1月6日 新宿文化センター小ホール 2台のピアノの午後〈セミクラシック(II)とサン＝サーンス(IV)〉  
<DEMI-CLASSIQUE ET ST.-SAENS> A. オハーン: 主題とジャズ変奏曲、ギロック: バリ2題、  
アストル・ピアノ・モデル、サン＝サーンス: 前奏曲とフーガ OP.99-1, バッハ＝グノー: アヴェマリア、  
グノー: 協奏的組曲(サン＝サーンス編曲2台ピアノ版——本邦初演)
- 2002年3月17日 新宿文化センター小ホール  
原 智恵子さんを偲んで——昭和25年の演奏会の曲目による2台のピアノの夕べ  
<IN THE MEMORY OF MADAME CHEIKO HARA DE CASSADO> モーツァルト: 2台のピアノの  
ためのソナタK. 448, サン＝サーンス: ベートヴェンの主題による変奏曲, シャブリエ: 3つのロマンス『イグナツとワルツ』
- 2002年5月11日 新宿文化センター小ホール 2台のピアノの夕べ〈パリとウィーン(I)〉<PARIS AND VIENNA>  
R. ブードリ: 子守歌とロンド、E. パラディル: 小さな鐘、サン＝サーンス: 糸杉と月桂樹、  
シューベルト: 6つのレントラー、メヌエット ニ長調、モーツァルト: ハフナー・セレナードより
- 2002年7月14日 新宿文化センター小ホール 2台のピアノの夕べ〈パリとウィーン(II)〉<PARIS AND VIENNA>  
モーツァルト: ラルゲットとアレグロ、シューベルト: ピアノソナタ イ長調 D.664(独奏: 益子徹)  
サン＝サーンス: 序奏とロンド・カプリチオーソ(ドビュッシー編曲版)、メヌエット変ホ長調  
グノー: 協奏的組曲(サン＝サーンス編曲2台ピアノ版——再演)
- 2002年9月7日 新宿文化センター小ホール 2台のピアノの夕べ〈リチャード・ロジャース生誕100年〉  
<THE CENTENNIAL OF RICHARD RODGERS> ロジャース: ドレミの歌、トリプル: The Garter Mother's  
Lullaby, The Green Bough, ベンジャミン: ジャマイカン・ルンバ、ジャマイカリブソ、R. R. ベネット: 組曲、  
ロジャース&ハート、A. オハーン: 主題とジャズ変奏曲、H. ブレイク: 舞曲集
- 2002年11月10日 新宿文化センター小ホール 2台のピアノの夕べ〈パリとウィーン(III)〉<PARIS AND VIENNA>  
ロシュロール: ワルツ、ダンドロ: 幻想的ワルツ、トメ: 飾らぬ告白、ギロック: シャンパン・トッカータ(2台  
8手)、ダマーズ: ソナチネ、ブラームス: 5つのワルツ、モーツァルト: ソナタK. 448
- 2003年1月18日 新宿文化センター小ホール 2台のピアノの夕べ〈イギリスとフランス〉<ENGLAND & FRANCE>  
ローリー: 5つの抒情小品と練習曲、ブリテン: カンツォネッタ、トリプル: 3つの小品、グレインジャー:  
収穫の賛歌(2台8手)、ピエルネ: おもちやの兵隊の行進(2台8手)、ダマーズ: トッカータ、パッサカイユ  
と終曲、ボエルマン: ノートルダムの祈り、サン＝サーンス: ヴィクトル・ユゴーへの賛歌
- 2003年3月21日 新宿文化センター小ホール 2台のピアノの夕べ〈地中海から南米へ〉  
<AN IMAGINATIVE TRIP TO SUL-AMERICA> N. ローレム: シシリエンヌ、サン＝サーンス: アルジェ  
リア組曲、ロベス＝ブチャルド: 夜曲、ロンガス: ホタ・アラゴネーゼ、カルロス・グアスタビーノ: バイレシート、  
鳩のあやまち、ピント: 子どもの情景、ミニョーネ: ヴァルサ＝ショーロ第8、10番、サン＝パ＝リトミコ